

日経新聞 6 月 23 日付け朝刊にカネカの新規技術を活用した膝関節症の治療に関する記事が掲載されました。

(要約)

- ・変形性膝関節症の自覚症状を有する患者は国内で約1000万人、潜在的な患者は約3000万人と推定される。
- ・治療法としては、自分の体の軟骨を移植する方法があるが複数の工程が必要で医療費も高額となるという課題がある。重症化すると人口関節の移植が必要となり、患者への負担も大きい。
- ・新たな治療法として、mRNA を使った治療法や IPS 細胞から軟骨を作る方法などが研究されている。
- ・今回東海大学では、母親の子宮内で赤ちゃんを包む膜の一つである羊膜に含まれる「間葉系間質細胞 (MSC)」を活用する臨床研究を6月から開始する。他の治療法が軟骨をシート状に培養し膝関節に移植するのに対して、MSC の治療は局部に注射することで済むので患者への負担が軽減される。
- ・カネカは以前から急性期の脊髄損傷や遺伝性難病の筋ジストロフィーに対して MSC を活用した治療法を研究してきた。今回の東海大学の取り組みに対しては、羊膜の採取や細胞の培養、保存などをカネカが担う。

*カネカが長年取り組んできた MSC の研究が新たな分野で活用されることになります。ぜひ成功して欲しいですね。